

○自治体が管理する橋梁の点検結果や補修に向けた調査方法及び補修内容等についてTEC-FORCEアドバイザーにご意見頂くと共に、今後の対応について助言を頂いた。

参加者:熊本大学 ^{まつむら}松村教授、熊本県内自治体

●TEC-FORCEアドバイザーによる症例検討会での助言(令和7年8月4日)



【自治体からの懸案】

・今回、主鋼及び支承の腐食により判定がⅢとなった。本橋梁のように、部材の一部が判定Ⅲとなり、残りが比較的健全な場合、どこまで補修を実施すれば良いかご教授願いたい。

【TEC-FORCEアドバイザーからの助言】

- ・主桁のウェブが減肉すると孔食により貫通する事例が多く、さらに、亀裂が発生するとウェブが局部座屈を引き起こす可能性がある。
- ・支点垂直補剛材は、端部の減肉であれば塗装し水処理を行えば、しばらくは大丈夫と思われる。
- ・支点補剛材は、全体の板厚が均一に薄くなっているか判断するには現地を直接見ないと分からない。耐荷力に関しても一概には判断できないが板厚の減少度合いに応じ適切な補強策を講じる必要がある。
- ・支承の交換は高額であり、支承の機能がある程度残っている場合は、アンカーボルトの交換のみで対応する方法もある。